
懺悔

minimum

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

懺悔

【ノート】

NO100H

【作者名】

minimum

【あらすじ】

遂に再会してしまった赤井秀一と灰原哀。その時の哀の心境とは…。

(前書き)

弱々しい赤井さんを見たくない方は、迷わずbackすることを勧めします…。

念の為に言っておきますが、この二人はカップリングにあらず！です。

「どうしてっ！？どうしてお姉ちゃんを巻き込んだのよっ！！どうして…っ！」

思わず感情的になってしまって、込み上げてくる涙に後の言葉が続かない。

目の前には、以前に組織の中で見たことのある「ライ」と呼ばれた男。

あの頃と違って、長かった髪をバツサリと切っている。

姉はこの男と付き合っていた。

私の「組織の人間だから」という心配をよそに、二人はとても幸せそうに見えた。

姉はこの男を愛していた。

この男も姉を愛していた……と思う。

だって、姉を見つめるその眼差しは、いつだって愛おしそうだったから。

でも、この男は突然消えた。

姉は何も言わなかったけれど、今思えばその理由を知っていたんだと思う。

あの時の、姉の悲しそうな辛そうな、それでも無理に笑顔を作って

いるそんな表情を思い出して、より一層ズキリと胸が痛んだ。

「お姉ちゃんは、本気で貴方のことが好きだったのに…っ！」

男の服を小さな両手でギュッと掴む。こんな小さな身体じゃなければ、今も無表情で私を見下ろしているその男の顔に、思いつきり殴りかかることが出来たのに。

「どっして…。」

次々と溢れてくる涙に、とうとう言葉が出なくなった。

掴んでいる服に顔を押し付け、涙を止めようと必死に頑張ってみても、一向におさまる気配はない。

言っでやりたいことはたくさんある。

どれだけ姉が悲しんだか。

どれだけ姉が傷ついたか。

どれだけ姉が、貴方を愛していたか。

「志保。」

突然呼ばれた今は封印された名前。
その低い声に驚いて顔を上げると、私の小さな身体に温もりが訪れた。

「すまなかった。」

片膝をつき、ギュツと私を抱きしめる手に力が入る。
そういえば、この男に名前を呼ばれるのは初めてかもしれない。

「すまなかった。……志保。」

よく見ると、その広い肩がわずかに震えている。

長身の身体を小さく折り曲げて、小さな少女に抱きついて声なき声で泣いている男
赤井秀一。

この人も悲しかったのだろうか。
この人も泣きたいのを我慢していたのだろうか。
この人も深く深く、傷ついていたのだろうか…。

「明美…っ。」

…ああ、やっぱりこの人は姉を愛してくれていたんだ。

愛する二人は引き離されてしまったけれど、きっとその時は誰よりも幸せだった。

あの頃の姉の笑顔は、誰よりも綺麗だったから。

その短い姉の人生にも、確かに幸せがあったことに少しホツとした。それを与えていたのは紛れもないこの男、赤井秀一だ。

「…ごめんなさい。貴方の大切な人を守ることが出来なかった…。」

ごめんなさい。

ごめんなさい。

「志保の、たった一人の家族を奪ってしまったってすまなかった…。」

抱き合いながらお互いに懺悔する。流れる涙もそのままに。

私達が大切にしていた人はもう二度と帰ってこないけれど、姉の為に泣いてくれる人がいる。

それだけで十分だった。

きっと姉はどこか遠くでこの状況を見守っていて、口をとがらせながら嫉妬しているのかもしれない。

「……ふふっ。」

そんな姉の姿を想像して、赤井秀一の腕の中で小さな笑みがこぼれた。

この皮肉で残酷な再会が、未来への希望となればいい。

(後書き)

赤井さんと哀ちゃんが出会ってしまったら、どんな感じになるんだろう…という妄想でした。

キャラの性格が違ってしまってすみません…。

この二人がどういった状況で再会したのか、どうして哀ちゃんの正体がバレてしまっているのか、作者の私にも分かりません。無責任でホントにすみません。

でもあの赤井さんが、哀ちゃんの前だけでは涙を見せる………ってところにちよっと萌え？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0100h/>

懺悔

2010年12月15日03時00分発行